

学生が主体になった支援者の組織的養成プロジェクト

日本社会事業大学Supporters Training Team & 聴覚障害学生支援プロジェクト室

- ・テイカー個人のスキルアップ
- ・継続的で質の高いトレーニング
- ・社大のルールや、共通認識の構築
- ・授業形態と支援手段の合致

- ・一部の教えられる人の「頭」「経験」に頼っている
- ・学生は忙しいのでまとまった空き時間がない
- ・学生団体のC S S Oは代によってスキルと意識の差が生じる
- ・必要な支援方法とテイカーの持っているスキルの不一致

2011.5

STT

(Supporters Training Team) 結成！ 現在10名

- 教える人材の有無に左右されないように、教材を作成する
- テイカーのスキルアップのための継続的な研修を行う
- 空き時間に個人で練習できるような環境を作る
- 人員不足をカバーする新しい支援方法として音声認識を導入する



教材作成

トレーニング

音声認識導入

5～6月：STT新体制の説明・教材作りディスカッション

6月～：小規模なトレーニング・自主練

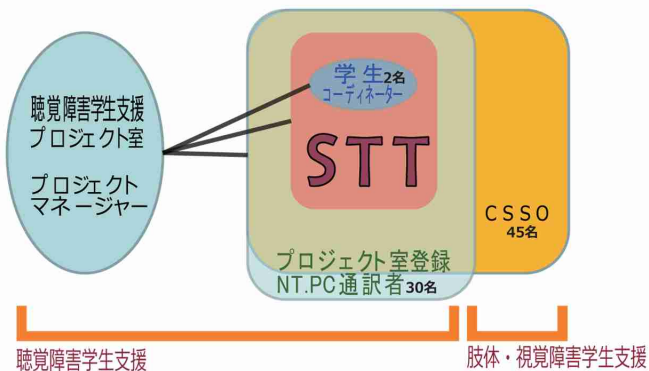


7月：ディスカッションのまとめ、教材内容検討

脳内通訳

- 要約力を伸ばすトレーニング
- ① 授業を聞く
 - ② そのままコピー（「聞く&記憶する」力）
 - ③ 書き言葉的に整えて声で通訳＝連携入力の状態
 - ④ 元ネタの20%で声で通訳＝NTの状態

日本社会事業大学支援制度



学生コーディネーター

- プロジェクトマネージャーと連携して、学生支援者の配置・連絡を行う。
- 週に1回程度、プロジェクトマネージャーとミーティング、ケーススタディを行い、支援をコーディネートする。
- 支援者養成のための研修等の企画と実施について協議する。

STT (Supporters Training Team)

- 支援制度運営についてプロジェクトマネージャーと意見交換して実行に移す。
- 支援関係者懇談会等を牽引する。

プロジェクト室登録NT、PC通訳者

- ノートテイカー、PCテイカー等として支援に入る。
- STTが呼びかけた研修やディスカッション等に参加し、社大の聴覚障害学生支援体制を支える。

問い合わせ先

日本社会事業大学 聴覚障害者大学教育支援プロジェクト

岡田孝和 n.okada@jcsu.ac.jp